

2024
6.15

NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

[NO.685]

校章は、創立直後の昭和17年、公募によって制定され、平成4年、創立50周年に伴い、商標登録されました。新しいNEWS CITはスクールカラーの「紫紺」をベースに、さわやかなスカイブルーカラーでお届けします。

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

千葉工大らしい「文化の魅力」 第29回文化の祭典

第29回文化の祭典(実行委員長・小川真一郎さん=情報ネットワーク学科4年)が6月2日(日)、津田沼キャンパスでにぎやかに開催されました。地域住民の方々を招き、「文化爆誕」をテーマに新しいことに挑戦する希望を込めたこの祭典では、各団体の持つ魅力や日々築いてきた文化を「爆誕」させ、楽しんでもらうことを目指しました。

昨年は目標に掲げた「新型コロナ前への復活」を達成し、今年はさらなる発展を目標に活動を開始した実行委員会。今の時代に沿った文祭を模索し、困難な問題点もやりがいに変わって、役員全員で準備を進めました。当日は天候に不安が残る中、一般公開の10時を迎え、屋外ステージでのパフォーマンスや各クラブ、サークルの日頃の成果発表など、練りに練った企画が披露されました。

P2-3 【トピックス】テーマ「文化爆誕」で盛り上がる／成田山詣り脚40キロを完歩／【受賞・イベント】国際会議で学生論文賞を受賞／初めての学会で学生論文賞を受賞／国際学会で学生ポスター賞を受賞／日本水環境学会で学生ポスター発表賞を受賞／県人会 寮生108名が参加

P4-5 【受賞・インフォメーション】近衛飛鳥助教に日本モンゴル学会・モンゴル国大使賞を授与／fuRo 鈴木太郎 上席研究員が優秀賞を受賞(第29回ロポティクスシンポジウム)／fuRo 吉田智章 副所長がベストデモンストレーション表彰を受賞(日本機械学会)／KASHIWAが初期ミッションを達成「SAKURA」「YOMOGI」も打ち上げを予定／科学技術を駆使し、世界一安全な道路交通の実現を目指す 千葉県警察本部長講演／171校の高校教員が参加 令和7年度入試説明会／出版案内

P6-7 就職・進路支援だより／コラム

テーマ「文化爆誕」で盛り上がる



パフォーマンスステージを盛り上げたアカペラサークル



開会の言葉を述べる小川実行委員長



電研で実施した工作教室



ポップコーン出来ました



フィッシャークラブのヨーヨー釣り



大人気となった文祭キャラクター「バクタンちゃん」

屋外のパフォーマンス広場とステージでは音楽サークルやアカペラサークルなどが次々と観客を魅了しました。特に目玉となった、人気声優の酒井廣大さんと田丸篤志さんをゲストに迎えたトークショーは大盛況。また、2号館3階で行われた吹奏楽部によるコンサートでは、心地よい音色に観衆が酔いしれました。屋外では、よさこいソーラン風神部の力強い演舞がキャンパスを一層盛り上げ、歓声が響きました。

その他の発表では、「精密ロボット工学研究会」がロボコンに出場した機体の展示や操縦体験を行い、工大の魅力を生かした貴重な体験が好評を博しました。また、「フィッシャークラブ」のヨーヨー釣りは、気軽に楽しめる子供を中心に人気を集めました。模擬店ではトルネードポテト、チュロス、だんご、ポップコーンなどが販売され、多くの来場者を楽しまれました。

実行委員長の小川さんは「突然の大雨を除けば、大きな問題も起こらず無事に終わられたという点で、個人的には満点の文化の祭典だった。第28回で復活し、第29回で基盤を固めた。次年度の第30回という節目では、この積み重ねをさらに発展させたより良いイベントを実現できると信じています」と次年度への期待を含めた感想を述べました。

成田山詣行脚40キロを完歩



成田山新勝寺前で記念撮影



挨拶する体育会会長



晴れ晴れとした顔でゴールする学生たち

体育会本部主催の第52回成田山詣行脚が5月18日と19日にわれ、学生・教職員約400人が津田沼キャンパスから成田山新勝寺までの約40キロの道のりを夜通して歩き通しました。この行事は、精神力・体力の向上と無病息災を願ひ、親睦を深めることを目的に開催されました。

18日の午後6時半に津田沼キャンパスを出発し、途中2度の休憩を挟みながら、約12時間半後の翌朝7時に全員が成田山新勝寺に無事到着しました。長く厳しい道のりを歩き抜いた参加者たちは、教職員や同窓会成田支部の先輩方に温かく迎えられ、安堵と達成感に満ちあふれていました。

実行委員長の鈴木慧さん(情報ネットワーク学科4年)は、班の数や参加者を昨年より増やし、休憩所ごとの到着予想時間や歩行時間の設定を工夫したと述べています。また、スタッフ用マニュアルの作成には地図を新たにし、見やすくすることに注力しました。鈴木さんは「想像より体力的には問題なく、他会の会長や安藤先生と交流しながらとても楽しく歩きました」「行脚が無事に終了し、とてもすっきりしています。二年間担当し、大きな問題もなく、ご尽力くださった同窓会や教職員の方々、担当者全員に感謝しています」と語っています。

行脚に参加して

学生【20代】 どの他の行事に負けないほど大きな達成感を得られる行事です。参加の際は服装や靴、防寒具などの準備を入念に。
 学生【20代】 班員、4会会長メンバーと会話できて楽しく完歩しました。一緒に歩いた人との絆が生まれ、参加して本当に良かった。
 職員【20代】 普段、お話をする機会が少ない方々と様々なお話ができて良かった。行脚後のストレッチやマッサージを忘れないよう！
 職員【50代】 成田山のパワーで1年間健康でいられる気持ちになりました。荷物が重いと疲労が蓄積されてしまうので、荷物は軽い方が良いですよ。
 職員【50代】 5年ぶり4度目の参加！歩き終えた時の達成感は半端ありません！成田山でいただいた「あんぱん」と「牛乳」はとっても美味しかった！
 教員【50代】 歩き続ける中でいろいろなお話が考えられたり、最後は無心になって黙々と歩くことで精神的にも鍛えられた気がします。

国際会議で 学生論文賞を受賞



先端材料工学専攻 千葉 萌翔さん
【内田 史朗 研究室】

先端材料工学専攻1年の千葉萌翔さんが4月26日、第6回光無線給電・光ファイバ給電国際会議(OWPT2024)で学生論文賞を受賞しました。研究のテーマは「1064nmのレーザー照射下におけるCIGS太陽電池の光電変換特性」。千葉さんは、化合物半導体太陽電池(CIGS)の光無線給電への応用にに向けて1064 nmのレーザー光を照射し、光電変換効率のレーザー光強度依存性と温度依存性を調べました。その結果、高い変換効率を得られ、光無線給電への応用の可能性を広げたことが評価されました。千葉さんは「このような賞をいただくことができて大変光栄です。先生や研究室の皆さんが協力してくださったおかげです。今後も研究に励んでいきたい」と喜んでいました。

初めての学会で 学生論文賞を受賞



先端材料工学専攻 青山 伶央さん
【内田 史朗 研究室】

先端材料工学専攻1年の青山伶央さんが4月26日、第6回光無線給電・光ファイバ給電国際会議(OWPT2024)で学生論文賞を受賞しました。発表テーマは「光無線給電用3接合InGaAs太陽電池の検討」。青山さんは、通信用に広くしている1550 nmの波長を持つレーザーと、3接合InGaAs(インジウムガリウムヒ素)太陽電池を用いてレーザーと太陽電池を組み合わせた無線の給電方法について検討・調査しました。その結果、約24%の光電変換効率を得られたことが評価されました。青山さんは「初めて参加する学会の発表でこのような賞を受賞できて嬉しく思うと同時に驚きました。サポートしてくれた先生や先輩に感謝しています」と感想を語っています。

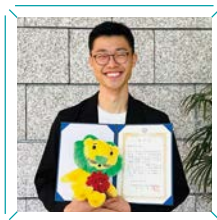
国際学会で 学生ポスター賞を受賞



電気電子工学専攻 西村 敢さん
【藤本 靖 研究室】

電気電子工学専攻2年の西村敢さんが4月26日、先進レーザーと光源技術に関する第13回国際学会(ALPS2024、一般社団法人レーザー学会主催)で学生ポスター賞を受賞しました。テーマは「高出力可視光ファイバレーザー開発」。藤本靖研究室で開発中のレーザーは光の3原色(青・緑・赤)の出力が可能で、プロジェクターの光源としての利用などが想定され、小型レーザーによる高効率の加工を目指しています。西村さんは希土類元素の「Pr3+」を添加した光ファイバを用いた可視光ファイバレーザー高出力化に関する手法を提案しました。西村さんは藤本教授らに感謝するとともに「今後も可視光レーザーの高出力化や光源の開発に精進します」と喜びを語りました。

日本水環境学会で 学生ポスター発表賞を受賞



都市環境工学専攻 深澤 英司さん
【亀田 豊 研究室】

都市環境工学専攻1年の深澤英司さんが3月7日、日本水環境学会の2023年度年会学生ポスター発表賞(ライオン賞)を受賞しました。研究テーマは「東京湾底質中の粒径20 μ m以上のマイクロプラスチック調査」。海域に流出したマイクロプラスチック(MPs)は、底生生物に影響があるとされているものの、超微細なMPsの分析方法などは確立されていませんでした。深澤さんは、20 μ m以上のMPsを対象に調査し、分析方法を確立。底質中のMPsは海水中よりも微細なもので構成されていることを明らかにしました。深澤さんは「これからも精進し、ライオン賞に恥じぬよう研究を進めていきます」と感想を語りました。

県人会 寮生108名が参加



千葉工業大学の学生寮には、約500人の男子学生と約120人の女子学生が入寮しており、今年4月には、約280人の新入生が入寮しました。6月8日(土)、寮友会主催(寮友会会長=梶田倭さん(建築4年))、本学同窓会がタイアップした企画「県人会」が行われ、希望する108名の寮生が参加しました。

この県人会は、寮生活を送る中で同じフロアや学科の友人だけでなく、先輩後輩を問わず、同郷の友人を作ることを目的としています。同郷の友人との交流を通じて、郷土愛や寮内の新たな一体感が生まれることを期待して実施されたもの。当日は、学生寮2階の食堂でランチタイムを兼ねて開催されました。

寮生たちは、出身県ごとに13グループに分

かれ、各グループで地域にまつわる話をしたり、全体イベントでご当地クイズを出し合うなどのレクリエーションを行いました。方言や地元で誇れるもの、ご当地ゆるキャラの名前や名物のラーメン等、クイズ大会は大盛り上がり。

司会を担当した菊池あかりさん(PM2年)は「出身地以外のことについて知らないことが多く、そこから話題が広がり、グループの枠を越えて交流してもらえたら…。学年や男女問わず交流を深められたと思う」また、小野寺幸さん(テザ2年)は、「私自身、昨年度の同イベントで、親元を離れたばかりでも不安が解消されたこともあり、入寮して間もない1年生が同郷の友達を見つけて楽しそうに会話していて安心しました」と話していました。

近衛飛鳥助教に 日本モンゴル学会・ モンゴル国大使賞を授与



社会システム科学部の近衛飛鳥助教が2023年度の「日本モンゴル学会・モンゴル国大使賞」に選ばれ、5月18日に駐日モンゴル大使から授与されました。近衛助教は内モンゴルにおける西洋宣教師による医療衛生活動について、カトリック聖母聖心会・日本の財団法人善隣協会の医療活動に関する学位論文を提出。その成果を「西洋医学の内モンゴル伝播：西洋宣教師・帝国日本・モンゴル知識人」（風響社）として出版するなど、卓越した研究業績が評価されました。近衛助教は「このような栄誉を授かることができたのは大学の教育環境や研究支援体制、教職員のサポート、学生の協力のおかげです。心から感謝の意を表します」と語りました。

fuRo鈴木太郎上席研究員が 優秀賞を受賞 第29回ロボティクスシンポジア



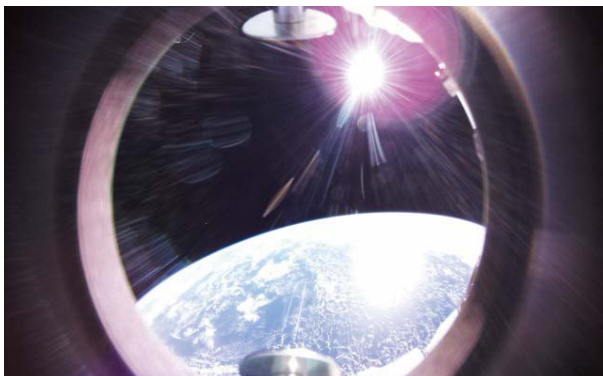
未来ロボット技術研究センターの鈴木太郎上席研究員が3月5日、沖縄県名護市で開催された「第29回ロボティクスシンポジア」（日本機械学会・計測自動制御学会・日本ロボット学会が主催）で優秀賞を受賞しました。論文のテーマは「姿勢推定を必要としないGNSSとIMUの複合による位置推定」。従来は必要だった三次元姿勢を推定することなく、移動ロボットの位置推定精度を向上させるため衛星測位装置（GNSS）と慣性測量装置（IMU）を複合する新たな手法を考案したことが評価されました。鈴木上席研究員は「これからも独創的な研究を行い、継続して学会・論文発表を続けていきたい」と受賞の感想を語りました。

fuRo吉田智章副所長が ベストデモンストレーション表彰を受賞 日本機械学会

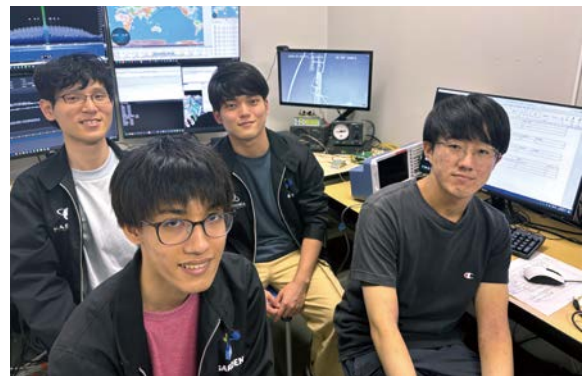


未来ロボット技術研究センターの吉田智章副所長が5月30日、「ロボティクス・メカトロニクス講演会2023」で発表した講演・デモンストレーションが評価され、一般社団法人「日本機械学会」のロボティクス・メカトロニクス部門でベストデモンストレーション表彰を受けました。テーマは「深層強化学習による歩道環境を移動する四脚ロボットの歩行制御システム」。移動ロボットが自律走行する技術チャレンジ「つくばチャレンジ2022」での歩行制御システムが評価されました。吉田副所長は「自律歩行システムはチームで取り組んできました。今後はよりロバスタなシステムとして発展させていければと思います」と表彰の喜びを語りました。

「KASHIWA」が初期ミッションを達成 「SAKURA」「YOMOGI」も打ち上げを予定



「KASHIWA」が撮影した地球



地上局で運用するKASHIWAメンバー

拡大する宇宙産業を支えるため、本学では2021年4月より「高度技術者育成プログラム」を実施しています。その一環として開発し、宇宙へ放出された超小型衛星「KASHIWA」が、2024年6月3日に人工衛星局相当アマチュア局免許を交付され、衛星基本機能の宇宙空間での動作確認及び初期ミッションを達成した事を発表しました。

具体的には、衛星が撮影した画像1枚の地球上での復元、APRSによるメッセージ送信、地磁気データの聴覚情報への変換を成功させました。現在は、APRSによる双方向通信やステレオカメラによる測距、夜間光等を対象とした地球観測にも挑戦し、取得したデータはSNSやウェブサイトにて公開しています。

プロジェクトマネジャーの関口智礼さん

（機械工学専攻1年）は「自分たちでつくった衛星が実際に宇宙で動くことは感慨深い。地磁気の音を世界へ届けることができ嬉しい」と喜びを語りました。

「KASHIWA」に続き、2024年8月には「SAKURA」、秋には「YOMOGI」の打ち上げが予定されています。これらも学生たちが主体となって開発を進めた人工衛星で、それぞれが設定したミッションに挑戦します。

科学技術を駆使し 世界一安全な道路交通の実現を目指す 千葉県警察本部長講演



理系学生に警察への関心を高めてもらうため、津田沼キャンパスで宮沢忠孝県警察本部長を招き特別講義が行われました。「警察における科学技術の応用と社会の変化への対応」をテーマに、県警の取り組みが紹介され、学生82人が熱心に耳を傾けました。

講義では、増加し続けるサイバー犯罪を防ぐために、県警がIT関連事業者とパートナーシップを結んでいることや、IT分野に強い警察官に対してサイバー犯罪対策の教育を行っていることが紹介されました。また、日本の警察が世界一安全な道路交通の実現を目指して、信号機の青信号の時

間を時間帯や曜日に応じて最適に設定する制御を取り入れていることや、事故や事件の際に車のナンバープレートを特定する技術についても説明しました。

講義を受けた学生らは、「白バイ隊員としての夢を持ちながらも、サイバー分野にも興味を持った。進路の幅が広がり参加して良かった」「ここまで科学分野に力を入れているとは知らなかった」「学んだスキルを警察でも生かせることに驚いた」と話していました。

この講義を通じて、多くの学生たちが警察の科学技術への取り組みやその実際の応用について深く理解し、将来の選択肢が広がるを感じたようです。

171校の高校教諭が参加 令和7年度入試説明会



高校教諭を対象にした本学の令和7年度入試説明会が6月4日に津田沼で、6月7日に東京スカイツリータウンキャンパスで開催され、2日間で計171校から173人の進路担当の先生方が参加しました。

説明会では、入学試験委員会委員長の 大川茂樹教授が本学の取り組みとトピックスについて、外部からの評価や現在の退学者・留年者抑制への取り組み、学部横断型のプロジェクト、そして来年4月に機械電子創成工学科が「宇宙・半導体工学科」へと改組されることなどについて話しました。

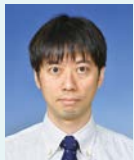
続いて、未来ロボティクス学科3年の毛利夏海さんが「学生から見た千葉工大」と

題したプレゼンを担当し、自身が千葉工業大学に入学したきっかけや、大学での学びの様子について話しました。学生の本音に基づくプレゼンは、「いいところも悪いところも素直に話してくれる姿に好感が持てる」「先生方との関係性の良さがよくわかった」と好評を得ました。

終盤では、出水雄祐入試広報部グループ長が昨年度入試結果の詳細を説明し、令和7年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点について説明しました。受験生が安心して入試を迎えるための仕組みや進学支援についても説明がありました。

出版

案内



ロボットの確率・統計 —製作・競技・知能研究で役立つ考え方と計算法—

本書は、ロボット開発に必要な確率・統計の基礎知識を提供し、確率ロボティクスや機械学習の理解を深めることを目的としています。大学の講義では得られない実践的な知識を、ロボットに特化した内容で学べます。ロボットの組み立てやプログラミング、性能評価など、さまざまな統計と確率の知識が必要な場面をカバーし、「ロボット好き」を引き込む内容となっています。数学が苦手な人でも楽しめる一冊です。

- 著者：上田 隆一（未来ロボティクス学科・教授）
- 定価：4,400円（本体4,000円＋税）
- 判型：A5 ● 頁数：288頁 ● 発売日：2024/3/21
- 発行元：コロナ社



コンピュータでとく数学 データサイエンスのための統計・微積分・線形代数

データサイエンスに必要な数学、多変数の微積分（解析）、特異値分解（線形代数）、線形回帰分析についての推測（統計）を学ぶための教科書です。全てが線形回帰分析につながるもので、何の役に立つのかと疑うことはありません。面倒な計算はコンピュータにまかせるので、計算に迷い込んでしまうこともありません。コンピュータを相手に自分の理解を試しながら学ぶ、学び直しにも適した一冊です。

- 著者：矢吹 太郎（高度応用情報科学科・准教授）
- 定価：2,970円（本体2,700円＋税）
- 判型：A5 ● 頁数：360頁
- 発売日：2024/4/8 ● 発行元：オーム社



就職・進路に役立つ情報をお届けします

就職・進路支援だより

3年生・4年生の「国内インターン」
単位認定についての確認

先月はインターンシップ参加支援についてお伝えしました。今月は、「国内インターン」単位認定についてお伝えします。

「国内インターン」の単位認定申請を予定している方は、インターンシップガイダンスやメール配信の内容を改めて確認し、以下条件をすべて期間内に満たしてください。「国内インターン」は、単位認定を希望し、条件を満たすことにより単位付与されます。提出が遅れると、単位が付与できないこともあります。メール配信等でお知らせしている提出締切を厳守し、各自責任を持って申請してください。なお、各学科で指定の提出方法がある場合は、学科の指示に従ってください。不明な点は就職・進路支援部へ問い合わせてください。

～「国内インターン」単位認定条件～

- ①「準備講座」「マナー講座」「報告会」それぞれに出席し、就職システムに報告を入力。
- ②インターンシップ先が決定次第「届出書」を就職システムに入力し、5日間以上(午前午後の丸1日の体験がある内容で5日間以上)の就業体験をする。複数社合算は不可。
- ③実習終了後、「実習報告書」を就職システムにアップロード。裏面の企業コメントおよび企業押印が必須のため、実習最終日に持参して作成いただく事をお勧めします。

※インターンシップ取り扱い変更(文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」(3省合意))に基づき、「国内インターン」の単位認定は、シラバス記載の通り、学部3年生以降となります。学部2年生以下で各種講座への参加希望や単位認定について質問等がある方は、就職・進路支援部へ問い合わせてください。

全学生向け支援/
「学生アドバイザー」制度がスタート

就職活動を終えた学部4年生または修士2年生にインターンシップや就職活動、学生生活等について相談出来る「学生アドバイザー」制度が6月からスタートしました。これからインターンシップや就職活動に臨む方はもちろん、低学年の皆さんも歓迎します。就職活動を終えたばかりの先輩の体験談を直接聞ける貴重な場として、活用してください。



実施日： 平日13時から16時(大学の夏期・冬期・一斉休暇、休講時は除く)

場所： 津田沼キャンパス1号館2階 就職・進路支援部内

参加方法： 予約不要。時間に余裕を持って、お気軽に窓口にお越しください。

同窓会



在学中には同窓会活動について気にした事はなかったと思います。卒業後に計測器メーカーに就職しました。就職後に数年が経過し職場の先輩より同窓会の新年会(江戸川支部)があるので参加して見ないか?との声がかかり、あまり乗り気ではなく参加。当時20代だった私には衝撃でした。軽い気持ちで参加した場所には、60代～70代の諸先輩方を含め多数参加されており、理事長をはじめ、学長・大学関係者も参加された緊張感のある雰囲気でした。新年会では、大学の近況報告や諸先輩方の活躍の様子が報告され、諸先輩方より優しく接して頂き懇親を深めるには時間もかかりませんでした。早いものであれから約30年が経過しましたが、ほぼ毎年参加させて頂いております(笑)。現在も当時と同様に新入社員が入ると声をかけ参加者は増加しております。余談ですが弊社は、上記様な事もあり各部署において主要メンバーは、卒業生が幅広く活躍しております。今後も母校との繋がりを大切に出来ればと考えております。新メンバーはいつでもお待ちしております。

平成7年 電子工学科卒 武藤 公人

四季雑感



先日、自宅の窓のリフォーム工事を行った。当日は朝から土砂降りの雨で蒸し暑く、工事には最悪の天気。心待ちにしていたリフォームなのに、何だかちょっとブルーな気持ちになりながら、業者さんを待っていた。担当の方と、職人さん二人での作業が始まり、職人さんは一人で一窓ずつ、内窓を取り付けていき、担当の方はその作業がしやすいように、手際よく部品等を揃えたり、廃棄物を集めたりしていた。担当の方の指示出し、職人さん同士の作業手順の確認等、常に声を掛け合い、丁寧に作業に取り組んでいる。それは、どの業種においても仕事の基本であり、一番大切なことだが、難しいことでもある。その真摯な姿勢を見ていて、私の心はいつの間にか、ほっこりハッピーな気持ちになっていた。リフォームで窓が新しくなり、家中が明るくなった喜びは、業者の方々の仕事ぶりのおかげで倍増した。

結局、工事が終わるまで雨は止まなかったが、心は晴やかになり、明日からも頑張ろうと思う、よい一日になった。

監査室 藤澤 いづみ

編集だより



6月からすでに真夏並みの暑さ。梅雨入りしていないことから、「夏至の頃」の強い日差しを直接照らし続けていることが理由だというのが、それにしても暑い(暑い)。

日本の夏の暑さの表現を調べたところ、酷暑、極暑、激暑、厳暑、炎暑、大暑、暑熱、炎熱、酷熱、温気、向暑、残暑、猛暑と出てくる。まるで 火炎系必殺技のようではないか。引越して間もなく、リビングのクーラーが壊れてしまった我が家。汗を流しながら耐え忍んできた私だが、クーラーなしで3度目の夏を過ごすのはもう勘弁。隣接する和室からのおこぼれ冷気では、とてもじゃないが火炎系必殺技に太刀打ちできないというのが本音だ。(クーラー買って!)

こんな暑い夏をいかに楽しく過ごすか。冷たいアイスを片手に、お気に入りの本を読む。夕方の涼しい風を感じながらチョコ(愛犬)の散歩。友人や家族との楽しいバーベキュー。楽しみ方は人それぞれ。何かおススメがあれば、ぜひ、教えてください。

入試広報部 大橋慶子